

国展工艺

への誘い

1

染付葦文陶板

富本憲吉

国画会工芸部は1927年に創設された。そのきっかけをつくったのが、近代陶芸の巨匠として名高い富本憲吉(1886~1963)である。富本は「模様から模様を造るべ可



富本憲吉「染付葦文陶板」
(日本民藝館提供)

植物生き生きと表現

(1面参照)

からず」という信念のもと、白磁から色絵金銀彩まで作風を多様に展開し続けた。本作は、富本が東京に窯を構え、染付の作品を手がけていたころに制作されたもの。植物の絵柄が眞須で力強く描かれた清新な作品である。(益子陶芸美術館・松崎裕子)

◆◆◆

近代日本の工芸界を代表する巨匠や現代作家の作品が一堂に会する「90回記念国展」工芸沖縄展——黎明から現代——匠の系譜」が13日開幕した。展示作品200余点の中から国画会工芸部の礎を築いた巨匠の作品を紹介する。

90回記念国展「沖縄展」—黎明から
現代 匠の系譜—は10月2日まで。月曜
休館（9月19日は開館、翌20日は閉館）。
県立博物館・美術館美術館企画展示室。
入場料は一般1200円、小中高500円。
円。未就学児無料。